

2009年8月 ネットワーク全労生

ユニオン・カレッジを受講して ―ゼロから学んだ労働運動―

日本基幹産業労働組合連合会
政策推進グループ 山本 瀬里花
(2008年度ユニオン・カレッジ参加者)

ユニオン・カレッジへの参加を勧められたとき、私は基幹労連に入職してひと月も経っていませんでした。労働組合の世界を全く知らずにいた私にとって、本講座の狙いが「次世代ユニオンリーダーの育成」を図るとなっているものの、労働組合の基礎を一から教えてもらえるのは良いチャンスだ、と考え、参加を決めました。

ユニオン・カレッジの内容は、基礎的でありながらも多岐の分野にわたるものであり、興味深く受講させていただきました。労働運動に関する知識がなく、全くの「ゼロ」からの出発でしたが、歴史・経済・法律・コミュニケーションなど、座学あり実践ありで、どの講義も心から楽しめるものでした。特に労働運動の歴史を学んだことで、改めて、労働者の人権と生活を守るために多くの人が努力してきたのだと気づくことができました。今回受けた講義は、「厳しい状況下にあっても、常に加盟組合とそこで働く組合員のお役に立てるように頑張ろう」と、新たに気合いを入れ直すきっかけになりました。

また、ユニオン・カレッジを通じて、他産別の労組に関わる方々とも仲良くなることができました。特に講座が終盤に近づくにつれ、月に4回、終業後さらに2時間程度の授業を3カ月にわたって共に乗り越えた仲間としてお互いを認識できるようになったと思います。「体はきつかったけど、楽しかったよね」と言い合いながら、それぞれの産別の存在意義について語り合える仲間ができたことも、ユニオン・カレッジに参加して得られた大きな収穫の一つです。ユニオン・カレッジに参加したことは、労働運動に関わり始めた私にとって大変実り多い経験になりました。

今後、より多くの皆さんが参加され、ユニオン・カレッジがさらに充実されることを期待いたします。